電子データで編集する際は、記入欄を広げていただいて構いません。

第３号様式（第７条関係）

記入例（スタート支援）

事 業 計 画 書

３ページ以内で
ご記入ください

実施する事業について ※事業名、事業内容、対象者、実施日程・回数、参加者数、場所等を記入してください。 主な選考の視点 「公益性」 「事業実現性」 「自立性」	**事業名**：「海辺を楽しみながら守る連続プログラム」 市内の親子や若者を対象に、サザンビーチちがさきと市内公共施設で、海岸清掃、生き物観察、海洋ごみに関するミニ講座を４回実施します。各回の定員は 30 人程度とします。 初年度は４回の活動を試し、参加者が集まりやすい内容や時期、無理なく続けられる運営方法を確かめます。 【4～5 月】活動場所の下見、安全確認、広報、参加受付 【6 月】サザンビーチちがさきで海岸清掃と生き物観察 【7 月】市内公共施設で、海洋ごみと暮らしをテーマにしたミニ講座 【10 月】サザンビーチちがさきで海岸清掃と生き物観察 【11 月】市内公共施設で工作と活動全体の振り返り 【12 月】参加者アンケートの結果、参加人数、参加者の意見、費用を集計 【1 月】集計結果をもとに、広報方法や実施内容を振り返る 【2 月】次年度の内容、回数、役割分担、費用の確保方法を話し合い、活動計画をつくる 【3 月】事業で見られた変化と今後の課題を実績報告書にまとめる	**【記入のヒント】** ●事業名は何を目的とした事業かが伝わる名称にしてください。 ●スタート支援を受けようとする団体は、この事業を通じて、活動の進め方や役割分担、仲間・協力者、費用の確保などをどのように整え、活動を軌道に乗せていくのか、あわせて記入してください。 ・誰を対象に、いつ、どこで、何回実施する？ ・参加予定人数は？ ・初めての人でも参加しやすい内容？
事業の背景について 主な選考の視点 「公益性」 きっかけ・経緯	近年、海岸へのごみの漂着や利用者によるごみの放置など、海辺の環境保全が問題となっています。 一方で、地域住民が海岸の環境問題について学んだり、清掃活動などに参加したりする機会は限られており、特に若い世代の参加が少ない状況にあります。 こうした現状を踏まえ、地域住民が海辺の環境問題を身近に感じ、楽しみながら環境保全活動に参加できる機会をつくることが必要だと考え、本事業を企画しました。	**【記入のヒント】** 事業を実施しようと考えたきっかけや経緯、地域の現状や課題について、具体的に記入してください。

誰を対象に

どこで何を

何回？

何を実現したいか

どのような状態を目指す

どのような状態を目指す

事業の目的や効果について

どのような変化やつながりを生み出したい

主な選考の視点
「公益性」

【事業の目的】

本事業は、地域住民が海辺の自然環境に関心を持ち、環境保全の大切さを理解するとともに、自ら地域の環境を守る行動につなげていくことを目的としています。海岸の清掃活動や自然体験を通じて、子どもから大人まで幅広い世代が楽しみながら環境問題について学び、身近な自然を大切にする意識を育む機会を提供します。

また、世代や立場の異なる地域住民が協力して活動することで、住民同士の交流を深め、地域への愛着や連帯感を育むとともに、一人ひとりが地域の課題を自分ごととして捉え、主体的に地域づくりに関わるきっかけをつくることを目指します。

【どのように「げんき」を届けたいか】

海辺の清掃活動や自然体験を通じて、参加者が地域の自然環境の大切さに気づき、自分たちのまちへの愛着や環境を守ろうとする意識を育むきっかけをつくりたいと考えています。

また、活動を通じて生まれた地域住民同士の交流やつながりが、新たな参加者や活動へと広がり、一人ひとりの行動がまちの環境改善につながることを目指します。

さらに、きれいになった海辺が地域住民の憩いや交流の場となることで、まちの魅力が高まり、そこからまた人々の笑顔や活力が生まれるような、前向きな変化の循環をつくりたいと考えています。

【「げんき」をどのように確かめるか】

活動の実施前後に参加者へアンケートを行い、海辺の環境保全に対する意識や、地域活動への参加意欲の変化を確認します。

また、活動への参加人数やリピーター数、参加者同士の交流の様子などを記録し、人と人とのつながりがどのように生まれたかを確認します。

さらに、活動前後の海岸の写真や回収したごみの量を記録することで、地域の環境にどのような変化があったかを確認します。

「げんき」とは
人からまちへ、まちから人へと広がる前向きな
気持ちの変化・行動を「げんき」と表現しています。

【記入のヒント】

【事業の目的】
→事業の背景で記入した地域の課題や現状を踏まえ、この事業を通じて何を実現したいのか、どのような状態を目指すのかを具体的に記入してください。

【どのように「げんき」を届けたいか】
→この事業を通じて、参加者や地域に、どのような変化やつながりを生み出したいか記入してください。

・これまで参加していなかった人に、どんな一歩を踏み出してほしい？
・気持ちにどんな変化があるとよい？
・活動後に、どんな行動を始めてほしい？
・参加者同士にどんな関わりが生まれる？

【「げんき」をどのように確かめるか】
（確認する方法の一例）
・アンケートをとる　・声で確認する（参加者の感想、インタビューなど）・行動で確認する（継続参加が増える、参加者が運営側にまわるなど）・関係の変化で確認する（参加者同士や他団体との交流が生まれたなど）・活動中の様子で確認する（子どもが自分から動くようになったなど）・数字で確認する（参加人数、協力者数など）・記録で確認する（活動日誌、写真、成果物など）

事業の広報 について	（使用予定の媒体にチェック） ■チラシ・ポスター　□パンフレットなどの刊行物 ■ホームページ　□Facebook　□X（旧 Twitter） ■Instagram □その他 SNS（　　） □市の広報紙　□市の広報掲示板　□口頭にて伝達 □その他（　　）	
今後の展望 について ※団体としての今後の展望をお書きください。 **主な選考の視点** **「発展性」** **「自立性」**	今後は、活動に賛同する会員や協力者を増やし、団体の活動規模を拡大していきたいと考えています。 また、地域の自治会や学校、他の市民活動団体などとの連携を深め、より多くの地域住民が参加できる組織づくりを進めていきます。 将来的には、NPO 法人の設立を目指すとともに、安定した運営資金の確保や組織体制の強化を図り、地域に根ざした活動を継続的に展開できる団体へと成長していきたいと考えています。	**【記入のヒント】** 今後、団体としてどのように成長・発展していきたいか、将来の目標や目指す姿を具体的に記入してください。
事業の実施体制 について **主な選考の視点** **「事業実現性」**	団体の構成員 12 人で、本事業の実施にあたっては、次のとおり役割を分担します。 ・事業全体の進行・安全管理：4 人 ・活動内容の企画・講師との調整：2 人 ・参加申込みの受付・参加者への連絡：3 人 ・会計、広報、写真撮影：3 人 活動当日は、構成員全員で受付、清掃用具の配布、子どもの見守り、安全確認などを分担します。 生き物観察や海洋ごみの学習については、市民活動サポートセンターに相談し、環境分野で活動する市民活動団体の情報提供を受けます。その上で、活動内容に合う団体に講師や助言を依頼します。 また、屋外活動の安全管理や、親子を対象とした活動を行う際の注意点についても、活動経験のある団体から助言を受け、団体内で共有します。 活動後には毎回メンバーで振り返りを行い、役割分担や、困ったこと、次回に向けた改善点を確認します。事業を通じて、メンバーそれぞれが受付、広報、会計、安全管理などを経験し、次年度以降は団体だけでも基本的な運営ができる体制を整えます。	**【記入のヒント】** 会員内でどのような役割分担をしながら事業を進めますか。総括、会計、広報、庶務（資料作成や会場手配等）、外部との連絡調整など、事業に必要な役割とその従事人数を教えてください。 また、協力者や関係団体などがあれば併せて記入してください。 ステップアップ支援申請団体は記入必須 （スタート支援申請団体は任意）

備考　「事業の実施体制について」欄は、市民活動ステップアップ支援補助金の交付を受けようとする団体は必ず記入してください。市民活動スタート支援補助金の交付を受けようとする団体は任意で記入してください。